

# 九十九里郷土研究会 郷土研通信

創刊号  
〈第1号〉

会長 齊藤 功  
事務局長 村松 英一

事務所  
0475  
76-0081

会員数 53名  
平成28年3月1日現在

設立 平成22年  
4月17日

## 創刊の辞

会長 齊藤 功

郷土研究会の『会誌 伊和志』創刊号が、平成二十六年十二月に発行されて以来、内外の評判に後押しされる形で会の活動が活発になつてきています。

これは、会誌が全会員が執筆した形で出てきているということが、その大きな要因です。会の年間活動の内容、講演・研究発表・文化祭展示、そして、二回の町内外史跡散策と研修旅行が定着化してきました。文化祭の展示についてのアンケートを実施したところ、入会希望・史跡散策の会員外への通知や参加勧誘要請など、嬉しい回答結果が得られました。これは、居住地域について身近な様々な事柄を知りたいという、住民及び近隣の方々の気持ちの表れと解釈しました。

そこで、会員相互の啓発や交流、一般の方、特に若い人々への入会参加の勧誘も考え、本会の活動報告を簡単に即時的に情報発信出来る『会報』を、左記の要領で発行することに致しました。

新たに発行する『会報』について、  
・名称を「郷土研通信」とする。  
・回数は年二回(六月・十一月)とする。  
・会員の研究成果を多くの方々にお知らせする(発表の場)。  
・会員の親睦を兼ね、気軽に自由に参加できる場を提供する(交流の場)。  
・町民を始め、多くの方々から本会の事業内容をお知らせし、参加・入会を呼びかける(情報提供の場)。  
としていきます。

なお、本『会報』は、『会誌 伊和志』に引継ぎ、本保弘文氏が担当致します。

## 会報 発行を祝う

九十九里町々長 大矢吉明

九十九里郷土研究会の会報『郷土研通信』創刊号発行にあたり、一言、お祝いを申し上げます。日々、会の発展に尽力され、また、今般の会報編集に傾注された齊藤功会長様をはじめ会員各位のご努力に深い敬意を表します。

歴史を辿ることは、自分の現在を顧みる契機となり、先祖への感謝の念を涵養し、同じ過ちを繰り返さないこと、これを次世代に繋ぐことに通じると認識しております。

会員の皆様、毎月の研修会をはじめ、機会あるごとに郷土の歴史研究に研鑽され、心豊かに人生の励みとされていることに羨望と喝采の想いを深くしております。

## 祝『郷土研通信』の発行

顧問 木島里八

平成二十二年に発足した「郷土研究会」が、会報の発行を見るに至ったことは、会の運営がいよいよ軌道にのつた証(あか)しと、慶賀の念を禁じ得ません。

## もくじ

- ・創刊の辞(齊藤功).....1
- ・会誌発行を祝う(町長大矢吉明).....1
- ・祝『郷土研通信』発行(木島里八).....1
- ・史跡散歩(山武・東金編)(村松英一).....2
- ・隠れた町の史跡(旧中西薬局)(齊藤功).....2
- ・随筆/古ぼけた貯金箱(内山いつ).....3
- ・エッセー「安来節」(篠崎青童).....3
- ・元旗本石谷氏子息よりの手紙(川島秀臣).....3
- ・酒ぐら巡り(染谷佳子).....4
- ・事務局日誌(村松英一).....4

を継続していくためにも、会報の発行は必要不可欠と思われまふ。

## 九十九里郷土研究会/役員

(平成二十七年度)

- ・顧問 木島里八 (片貝)
- ・会長 篠崎純一 (西野)
- ・副会長 川島秀臣 (西野)
- ・事務局長 齊藤功 (下貝塚)
- ・書記 内山いつ (真亀)
- ・監査 村松英一 (田中荒生)
- ・書記 伊東達也 (不動堂)
- ・監査 川嶋邦子 (東金)
- ・監査 山口俊江 (貝塚)
- ・監査 清水勇子 (片貝)
- ・監査 山本眞之助 (片貝)
- ・監査 小澤君代 (作田)
- ・監査 染谷佳子 (作田)
- ・監査 野嶋壽子 (片貝)
- ・監査 藤代智子 (田中荒生)
- ・監査 三宅伯彦 (片貝)
- ・監査 本保弘文 (真亀)

編集担当



随筆／古ぼけた貯金箱

内山 い つ



「お母さん！ この古ぼけた貯金箱、どうする？」  
 今日、離れて暮らす長男が、年末なので神棚の掃除など手伝いに来てくれている。私は、「それはお母さんの宝ものなのよ！ 父親が私の為に買ってもらった形見の品だから、その位置に戻してね！」  
 私は、遠い遠い昔の日々が脳裡に浮かんでくると、昭和十二年の六月、父母の長女として私が生まれた日々のことを。母の話によると、その頃、東金にある女学校へ進学することは憧れの一つであった。しかし、十キロも離れた学校へ進学するのは徒歩で一時間以上も要したので、当時の学生は、早朝、暗い頃より登校するのだった。交通手段として自転車がありましたが、現在の自動車ぐらゐの高額な品だったので、父は生まれたばかりの私の為にタバコを止め、その代金を貯金しようと、「貯金箱」を買って求め、楽しみに始めたそうである。優しい父の姿を想像するのですが、優しいし、しばらくして、七月七日に日中戦争が始まりました。その後、九月頃と思いますが、父は出征していきまされた。  
 母は、生後三ヶ月の乳呑児を背負い、面会に出かけたようですが、その頃になると、笑うしぐさを覚え、無心に笑う我が子をとて嬉しく喜んでくれたそうです。  
 そして、数年後、四歳の頃、日中戦争が終結により帰郷した父を迎えに晴れ着を装い、四キロ程離れた隣のバス停まで歩いて行った日の思い出、父に会いたさ一心で大人の方々と一緒に行ったものでした。  
 「もう、父ちゃんをどこへもやらない！」と、しがみついたと母から聞きました。  
 それから月日が過ぎ、妹も生まれ、平穏な日々を送っておりましたが、またも「大東亜戦争」が始まり、父は再び戦地に向かいました。木枯らしの吹く寒い朝、二度と会えない別れとは、私五歳、妹一歳、母二十八歳の早春でした。そして、待つていた父は、「昭和十九年八月十八日、西部ニューギニア・ヌンホル島にて戦死」の訃報を受け取りました。

エッセー／「安来節」

篠崎 青 童



今生で最後となる「安来節」をやらせて頂いた。十月十八日の我が西野の秋祭りである。八年振りの芸能発表会ということ。後輩たちが張り切つて計画されていた。内容も盛り沢山で、古くからの芸能や獅子舞で、一日たつぷりの発表会である。前回まで何時も必ず踊らせていた「安来節」で、今回は如何ですかとの問い合わせがあった。しかし、現在の私は、病み上がり。昨年は大病を患い、九死に一生を得た身体。歩行もままならず、車椅子がやっと。踊りはやりたいが、みづともない姿は、人様の前に出したい。でも、私は意欲を燃やした。何とか歩けたら、踊りも出来るのではなからうか。歩く訓練をすれば、何とかなる。歩行器を押しながら十日ほど歩く訓練をした。舞台づくりも、毎日、歩行器で見物した。小道具を出してみた。箆も、衣装も、カセットも健在だ。獅子舞の合間の幕間の時間を「安来節」を踊らせて頂いた。思ったより体の動き、何とか無事に踊ることが出来た。おひねりが沢山上がって面目を施した。我が人生の最後の舞台であったと思つている。  
 この「安来節」も、随分と長い年月踊らせて頂いた。西野の祭りばかりでなく、各地の敬老会や文化祭、何かの催しに頼まれるのである。私は報酬はもらわず、気軽に何処へでも出掛けたいので、頼みやすいのである。ミスターボランティアなのである。数年前、精神科浅井病院に頼まれたが、お昼までに五回も踊らせられたには、好きとは言うけど、大変なことであった。  
 養老院や病院では、結構、知人も居られたが、皆さんの声援で応援してくれたり、美味しい物も御馳走になったりした。中には、踊りを教えてほしい、という客もあった。敬老会にも随分とお世話になったが、最近はこちらも敬老会になつてしまった。  
 我が人生には、物質的には何も残らなかったが、人を楽しませることに徹して、大いに踊りまくつた人生であった。  
 すつかり晩年になつてしまったが、残りのあと僅かを、悔いのなく歩けたら幸いと思つている。アラ、エッサツサーである。

**原稿募集** **あなたの文章を** **活字化しませんか！**

原稿を左記の要領にて募集しています。振るつて投稿してください。

- 一、内容は自由。
- 二、研究論文、随筆、紀行文、旅日記、短編小説など。
- 三、四千字原稿用紙二枚〜三枚（千二百字以内）
- 四、原稿締切日は特に決めていませんので書き上げ次第、左記の「編集担当」又は事務局長にお渡しください。郵送でも可です。
- 五、掲載可及び不可は編集担当会で決めます（本人に連絡）。
- 六、本会報の発行は、六月と十一月を予定編集担当

本保	090	1652	5667
内山	090	2549	7234

元旗本石谷氏子息よりの手紙

川島 秀 臣

昨年九月の例会で紹介した作田の網主作田家へ宛てた元地頭旗本石谷氏子息からの明治二年の

「先般は妹縁組一条に付き一封差出候処、即日御答にて金二十両也御恵投下され、千

「当今は家内の外男女四人あり、畑等専(もつば)ら造らせ候得共目に見え候益も無く、時

切の旗本の子息がやらねばならぬ時代となつたのである。石谷家は、今後、この難局を如何に

諸家の古文書が保管されており、十一年前の爆発事故で散逸した文書も、最近整理を完了し、

酒くら巡り(杜氏の語源)

染谷 佳子

初詣は芝山仁王尊と決めて久しい。古代史好きの私は、古墳の地が気に入っているのと、三重の塔が美しく、近くで拝観できるのがうれ

◇酒・あらかると◇

「古代には酒は女性が造った」原始的な酒造法は、木の実を噛んで壺に吐き

事務局日誌

記/村松英一

4月25日 総会 記念講演 伊能忠敬物語

5月16日 閉会後、伊能忠敬研究会と交流会 町内散策(九十九里南西部と真

6月20日 例会 講話「私の少年時代」 講師 木島里八氏

21日 JR・九十九里町観光協会協賛 「九十九里浜ウォーク」

7月18日 例会 講話「わが家の歴史」 講師 古川 寛氏

9月19日 例会 古文書講座「作田家文書」 講師 川島秀臣氏

10月17日 会員による発表 十八分の青春 染谷佳子氏

11月2、3日 九十九里町文化祭・発表 「町内散策」案内図と解説 作成 村松英一氏

11月21日 史跡散策「九十九里町・山武市 東金市」 案内 村松英一氏

12月19日 例会 講話「地理学からみた九十九里」講師 関 信夫氏

28年1月16日 新年会(よしの寿司にて) 例会 講話「郷土の年中行事」 講師 齊藤 功氏

2月20日 例会 講話「郷土の年中行事」 講師 齊藤 功氏

3月19日 会報「郷土研通信」1号発行 役員会(次年度計画など総会に 向けての打ち合わせ、 諸準備)

あとがき

「会誌 伊和志」に続いて、この「会報」も担当することになった。前回の「会誌 伊和志」と同様に、発刊(発行)が決まってから